

令和6年度前期日程
「小論文（国際学部国際学科）」の出題意図

出題の意図

メディア・リテラシーとは、メディアの機能を理解するとともに、あらゆる形態のメディア・メッセージを調べ、批判的に分析評価し、創造的に自己表現し、それによって市民社会に参加し、異文化を超えて対話し、行動する能力のことをいう。そういう観点から、メディア・リテラシーは学問領域と関係なく、いまのインターネット時代では必要不可欠なものである。とくに、若者は SNS 等からニュースをはじめ、あらゆる情報を収集しているので、メディア・リテラシーを確認することを意図した問題である。

評価の基準として、以下の2点を重視する。

1. 著者の主張を要約できているかどうか。要約には以下の点が含まれていることが望ましい。

著者のいうメディア・リテラシーとは、メディアの表現やそのメッセージを批判的に解釈することを推奨するものであるが、なかでも性別や人種など自分と異なる立場の人がそれをどのように解釈するのかという点からテキストを読み解く立場のことを指す。

これは「中立的・客観的な見方というものは存在」せず、「あらゆるものの考え方は特定の立場に縛り付け」られており、「人によってももの見方は違う」と主張する立場をとる。

ただ、著者はこのような相対主義の立場を無制限に認めているわけではなく、重要な前提をふたつ置いている。①社会が「マジョリティの考え方」に支配されないよう、マイノリティの考えや見方を尊重するべきである。なぜなら、このことが社会の多様性をひろげることにつながると考えるからである。②ナチス信奉者に代表されるように「他者の意見を抑圧しようとする」見方についてはこれを認めない。なぜならこのような見方は「多様な社会の一部」を構成しないと考えるからである。

2. 著者の主張に対して、賛否いずれの立場をとっても構わないが、それぞれに説得力のある具体例と論理展開がされているかどうか。

賛成派が圧倒的に多いと予想されるが、マイノリティの考えや見方を具体的に言及し、メディアとして尊重することにより、国際学部の掲げている「多文化共生」にどのように具体的に貢献するか。

以上の2点を記述する際に、指定された文字数の範囲内で論理的かつ明確に記述する表現・表記能力も評価の対象とする。